

# 県産ヒノキ活用促進へ 知事、県内5社と意見交換



県産ヒノキの活用促進に向け意見を交わす参加者＝県庁

池田知事と県民の意見交換会「県政知事トーク」が21日、県庁であった。県などがブランド化を進める県産ヒノキについて、県の助成事業を利用した住宅を施工する県内企業5社の代表者が参加し、知事に助成金の増額やヒノキの活用促進に向けた取り組みを要望した。

知事と県民の意見交換会は2010年度から県内各地で定期的に行われていた。本年度4回目となる今回は、大河内工務店（三豊市）、菅組（同）、田中建設（同）、小松秀行建築工

房（高松市）、旺建（同）の5社を招いた。助成金については、「顧客に県産ヒノキの利用を提案しやすくなってありがたい」といった意見の一方、「補助金の額を上げること

で、建築主も県産ヒノキの使用に魅力を感じ、業者も動きやすくなるはず」との声も。「補助がなくなった時、どうやって県産ヒノキを維持継続していくかが大きな課題」と指摘する参加者もいた。

また、県産ヒノキの活用促進に向けては、「設計や施工を担う『つくり手』をその気にさせることがポイント」とし、木造建築の設計コンクールの実施や、木材を供給する側から使用する側まで幅広く連携したプラットフォームづくりなどを提案。知事は「具体的な素晴らしいアイデアをたくさんいただいた。早速施策に反映したい」とした。